

熱田ブランド推進プロジェクト “あつた人（びと）” になろう！

熱田の自然、緑を巡る ② 「熱田の“若い緑” ～新しい森づくり～」

熱田区は、熱田神宮、断夫山古墳、白鳥古墳、高座結御子神社の森や、白鳥庭園（公園）、神宮東公園などで緑の回廊ができ、区の中央を堀川が流れる“緑と水の豊かなまち”です。

「熱田の自然、緑を巡る①」では、熱田台地の成り立ちや台地上の代表的な緑を紹介し、『古の時代から続く熱田の自然・緑は、熱田ブランドの最たるもので、熱田台地の“悠久の緑”は、私たちにその重要性を語り掛けているようです。』旨を述べました。



熱田区公園配置図（緑政土木局）

今回は、「熱田の自然、緑を巡る②」として、白鳥庭園（公園）や神宮東公園など、熱田の“伸び盛りの若い緑”を見ていきます。＜これらはいずれも、『熱田台地』の外にある緑です。＞



白鳥庭園
（北からの眺望）

白鳥庭園

～世界デザイン博覧会、日本庭園と生物多様性、熱田の宝石箱～

誕生は世界デザイン博覧会

堀川を挟んで熱田台地の西側、白鳥貯木場の跡地につくられた東海地方最大級の池泉回遊式日本庭園です。白鳥庭園に当たる貯木場の南部は、ごみの埋立て工事が行われたエリアに当たり、遮水シートが敷き詰められた上に造成がなされています。

平成元（1989）年のデザイン博で日本庭園の一部が開場し、博覧会終了後、再整備を経て、平成3（1991）年に白鳥庭園としてオープンしました。＜白鳥庭園は、白鳥公園の有料部分です。＞

白鳥庭園では季節ごとに花が咲き日々多くの方が訪れています。観月会や雪吊りなど様々なイベントも催され、毎月第3水曜日に清羽亭で開催される白鳥寄席が人気を博しています。



現在の白鳥公園一帯
（南東からの眺望）



白鳥貯木場
（昭和45（1970）年、南西からの眺望）
（中部森林管理局）



埋立て工事
（昭和56（1981）年頃、南からの眺望）



庭園築造工事
（昭和62（1987）年頃）



白鳥庭園（清羽亭）



ライトアップ（雪吊り）

風景の成熟

白鳥庭園は、木曾三川流域（築山を御嶽山に見立て、そこを源流とする流れを木曾川とし伊勢湾へ注ぎ、熱田湊、そして白鳥に至る）の自然と歴史の縮景を表しています。多様な地形が、木曾五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）をはじめとする多様な植生を支え、樹種としては、モミジ、マツ、カシ、クスなどが多くなっています。

開園から30年余を経て樹木も大きく育ち、風景が成熟してきたことを感じます。



白鳥庭園の緑（風景の成熟）

また白鳥公園には、名古屋では珍しいアコウの木があります。これは、鹿児島のある小学校に生えていたものですが、故あって伐採されるところ、デザイン博白鳥会場（当時）に移植されたもので、オアシス広場で優しい木陰を提供してくれました。

樹齢200年以上と推定され、今も国際会議場近くの広場でユニークな存在感を見せてくれています。



デザイン博当時のアコウの木



現在の様子

生物多様性の醸成

白鳥の地では、デザイン博の後、「ごみ非常事態宣言」や、“自然の叡智”をテーマとした「愛・地球博」を経て、平成22（2010）年、国際会議場で「生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）」が開催されました。

その際、隣接する名古屋学院大学が屋上でハチミツづくりを開始したのを契機に、白鳥庭園は、無農薬の庭園管理を開始し、現在も生物多様性の取り組みに力を入れています。

例えば、庭園の一角で、チョウの蜜源や幼虫の食草に配慮した「和風バタフライガーデンの実験」や、季節の切れ目なくチョウの回遊性を高める「チョウの回廊、里庭づくり」を進めています。また、トンボの幼虫（ヤゴ）に配慮した池の清掃方法や鯉除け柵の設置、生息環境改善のための葦（ヨシ）帯づくりにも取り組んでいます。野鳥についても、陸鳥・水鳥の観察、記録を継続して行っています。

こうした取り組みの結果、白鳥庭園は、チョウ30種、トンボ21種、陸鳥30種、水鳥15種を数えるほどになり、植物と生き物たちが輝く、熱田の宝石箱のような存在になっています。



白鳥庭園の生き物たち（生物多様性の醸成）

<写真 飯田康博さんほか／都市の自然のモノサシ研究会>

(参考) 外部リンク

都市の自然のモノサシ研究会 <https://monosashi758.org>

◆都市にとって健康な植生活（：しょくせいかつ）って何だろう？

身近な自然って、どう評価すればイイの？ どうつきあえばイイの？

そんなモヤモヤをスッキリさせる目安（モノサシ）が欲しい …!!

日本庭園（原風景のレフュージア：退避地）のチョウ、トンボ、野鳥の調査を通して、

都市／人工的な自然と生物多様性の関係を探り、

活動成果を「報告書」にまとめています。

なごや環境大学の<共育ゼミナール>です。

◆なごや環境大学（since 2005）は、

名古屋市が、市民・市民団体、企業、学校・大学、他の行政機関との協働でつくっている環境活動のネットワークです。

「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える人づくり、人の輪づくりを進め、行動する市民、協働する市民として共に育つ（共育）ことをめざしています。

◆2022 報告書「いきもの歳時記」

（一部抜粋）

“桜の咲くころ飛び始めるモンシロチョウ、

秋になるとハギに群がるウラナミシジミ、

春から秋までずっと水辺で見かけるシオカラトンボ、

秋になると水辺に現れるアカトンボ類、

木枯らしが吹き、チョウやトンボが去るとやってくる冬鳥、・・・。

生き物たちは、空間（生息環境）だけでなく、時間（季節）の上でも棲み分けをしているようです。

時を縦糸に、無数の生き物たちを横糸にして織り上げられる四季、その端切れを集め、「いきもの歳時記」にしてみました。”



神宮東公園

～再開発事業と都市緑化、幻の開発計画、住宅公園と「区の花」花菖蒲園～

再開発事業と都市緑化

J Rと名鉄の線路を挟んで熱田台地の東側、新堀川との間、神宮東地区（六野・三本松）で、昭和50年代半ば～平成初めにかけて実施された再開発事業（住宅）に伴い、都市緑化が進められたものです。

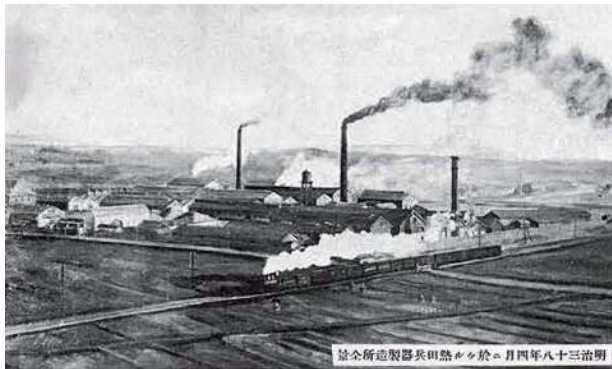


神宮東公園航空写真



戦後復興、幻の「熱田神宮外苑開発計画」

このエリアは、明治期以降、精進川（新堀川）の改修や鉄道など都市基盤整備や、白鳥貯木場の関係で原料資材としての材木が豊富にあったことから、近代産業が発達し、旧陸軍造兵廠熱田製造所もありました。



明治末の熱田製造所周辺（名古屋陸軍造兵廠史・航空廠史）



旧陸軍造兵廠跡記念碑

戦後、民需転換や大規模工場の郊外移転が進む中、昭和40～50年代初めにかけて、「熱田神宮外苑開発計画」という幻に終わった計画がありました。

これは、名古屋財界の主導によるもので、株式会社を設立し、“東京の明治神宮外苑のような大緑地帯をつくる”、というもので、大緑地、公共施設、大野球場、サッカー場、食堂街、日本一高いテレビ塔（当時）などを内容とするものでした。

これに対し、当時の名古屋市（議）会では、臨時市会まで開かれ、賛成・反対の立場から激しい議論が交わされました。最終的には可決され、市・県・民間が出資する「熱田神宮外苑土地開発株式会社」が設立されたものの、具体的な事業に着手することなく終わっています。

住宅公園と花菖蒲園

熱田神宮外苑開発計画の終了後、昭和56（1981）年から、市と住宅都市整備公団（UR）が一带を整備したもので、住宅と公園が半ば一体化したような現在の姿となっています。

公園の開園は昭和60（1985）年で、南北に長く、それを分けるように幹線道路が通っており、南園と北園を人道橋が結んでいます。園内には、名古屋市体育館や熱田プール、テニスコート、熱田土木事務所などがあります。

先述のとおり旧陸軍造兵廠や大規模工場の跡地に整備されており、もともと自然とは程遠い場所でしたが、今や緑の一大拠点となっています。



神宮東公園



公園の樹種としては、ケヤキ、クス、シイ、カシなどの高木や、ヒノキ、サザンカ、ツツジなどの中低木があります。

「熱田区の花」である花菖蒲園もあり、6月初めに見頃を迎えます。



神宮東公園
(花菖蒲園)

熱田区内では、こうした行政による取り組みのほか、企業による新しい森づくりも進められています。

区長の部屋（令和4年7月21日） 熱田の地に蘇った森林「三五の森」です。

<https://www.city.nagoya.jp/atsuta/page/0000151914.html>

以上、「熱田の自然、緑を巡る② “熱田の若い緑”」と題して、白鳥庭園（公園）や神宮東公園などの“新しい森づくり、環境への取り組み”を概観してきました。

改めて感じるのは、『古の時代から持続的な発展を遂げてきた熱田の歴史は、自然・環境の歴史でもあり、それは現在も引き継がれている。』ということです。

そして、これらの取り組みは、名古屋市の進めている環境活動方針<①生物多様性、②水の環（わ）、③低炭素（温暖化防止）>に合致するとともに、SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の観点においても、気候変動や陸の豊かさ、パートナーシップ等々、課題の解決に大いに貢献をするものです。

自然の大切さ、環境問題に関しても、熱田発！の取り組みが広く波及して、良い影響をもたらすといいなと思います。（記載中不十分な点をご容赦ご教示ください。）

<出典>

- ・熱田区誌（熱田区役所）
- ・名古屋都市計画史（名古屋都市センター）
- ・熱田生涯学習センター講座<なごや環境大学共育講座>
「身近な森に目を向けて ～熱田で感じる自然の大切さ～」
- ・伊藤悟先生教授資料（樹木医、大学講師、元熱田土木事務所長、元東山植物園・徳川園・戸田川緑地センター・久屋大通庭園フラリエ所長）
- ・「都市の自然のモノサシ研究会」報告書、関係資料

<https://monosashi758.org>